

聖学院大学総合研究所 人間福祉スーパービジョンセンター  
人間福祉学科・SW-net 共催  
第26回ピア・スーパービジョン

2021年2月26日(土)第26回ピア・スーパービジョンが開催された。当日の参加者は7名と少人数ながらもオンラインでの開催という事もあり、茨城県や福岡県など他県からの参加もあった。参加者の職域は高齢者福祉、障害者福祉、保健医療機関、精神保健福祉、大学(教育機関)等、幅広い領域にまたがり、新型コロナウイルス感染症による感染拡大の状況下において、それぞれの現場での実践や取り組みについて語り合うひとときとなった。職場によっては利用者との“かかわり”が大幅に制限されてしまい、十分な“かかわり”ができない事による焦燥感や葛藤(ジレンマ)を抱えている援助者も多い。参加者のなかには制限された現場での援助実践に関してアドバイスを求める切実な声も聞かれた。しかしながら、それは同時に、自らの援助実践を振り返るという事でもある。「悩んでいるのは自分だけではないのだ」という気付きにもつながる。「『援助者も利用者もお互いに新型コロナウイルスの感染の只中にいる』という点ではどこか“ピア感”を感じる」という利用者からの声が紹介された。利用者と援助者という関係性の枠組みを超えた“ピアサポート”の大切さについても言及することのできた良い機会となった。プログラム前半は各職場での感染対策の取り組みや面接の場面で注意している点についても報告された。現状の喫緊の課題として各々の参加者が有効な手立てを模索、検討している事も伺えた。

プログラム後半ではオンラインによる実践に取り組んでいる福祉現場での事例を基にITを活用した経営面における工夫や今後の新しい援助実践の在り方についても話し合った。福祉現場における対人援助実践は基本的に対面での取り組みが主となっているため、ITを活用した取り組みに抵抗感を覚える人も多い。しかしながら、2022年2月の時点において、新型コロナウイルス感染症の終息状況はまだみえていない。この現状を踏まえる時、今後は福祉現場においても“オンラインによる新し

い援助実践の形式”やツールとしての“オンラインの活用方法”についても検討を行い、開発していく事が必要となってくるかもしれない。この点については福祉施設や各法人組織の考え方によっても意見が分かれるだろう。当日も戸惑いも含め、様々な意見が寄せられ、多くの課題がある事も感じた。プログラムの終盤では大学におけるオンラインによる講義や学生たちによるオンラインでのボランティア活動の実践事例についても取り上げられ、担当教員によって創意工夫、試行錯誤をしながら実践(模索)されている事が紹介された。今回も多様な実践事例を通じて参加者は様々な示唆を得る事ができたのではないだろうか。

本学におけるピア・スーパービジョンのプログラムは聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンターとSWnet(聖学院ウェルフェアネット—本学卒業生を中心とした福祉のネットワーク)による企画運営の共催によって開催されてきた。2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大状況によって休止していたが、今回は初めてオンライン形式による方法で行われた。慣れないながらも無事に終える事ができたが、進行する上での課題も感じている。当日のプログラムの運営にあたり、オブザーバーとしてサポートいただいた小沼聖治先生(本学 心理福祉学部心理福祉学科 助教)、参加者、運営スタッフの皆様にもあらためて感謝申し上げたい。

#### 【Data】

日 時：2022年2月26日(土) 16:00～17:30

場 所：オンライン開催(ZOOM)

参加者：7名

(報告者：山田裕太 [やまだ・ゆうた] 聖学院大学  
人文学部人間福祉学科卒業、SWnet)